

第2回グリーンインフラ懇談会での主なご意見等

(世界的潮流とグリーンインフラについて)

- ・ 緊急的・前向きな潮流としてネイチャーポジティブ、カーボンニュートラルに言及すべき。
- ・ 「NbS」が自然を基盤的な手段として利用するものである旨を強調すべき。
- ・ 「ワンヘルス」について、国民が当事者意識を持てるような概念説明を加えるべき。

(グリーンインフラの位置づけについて)

- ・ 「グリーンインフラのビルトイン」が目的ではなく手段であることを示すべき。
- ・ グリーンインフラがコミュニティに与える価値について記載すべき。
- ・ 日本の伝統的な自然共生の事例を取り上げ、グリーンインフラとして発信すべき。
- ・ 社会資本財と自然資本財のグラデーションにグリーンインフラを位置付けるべき。
- ・ 自然環境と都市環境を重ね、各種開発とグリーンインフラを共存させる発想が必要。

(連携について)

- ・ 「横断的に取り組まなければ成果を上げられない」文脈で連携に取り組むべき。
- ・ 連携の面で、推進戦略としての新しい在り方へにチャレンジすべき。
- ・ 川上・川下全体をサプライチェーンとして捉え、省庁連携で取り組めるとよい。

(グリーンインフラの推進手法について)

- ・ 低未利用地活用について、国土形成計画と連携して効果的・戦略的に進めるべき。
- ・ グリーンインフラがエコロジカル・エコノミカルなアプローチである点を踏まえた技術開発が必要。
- ・ 「ビルトインのための視点」として、「デジタルの視点」を記載すべき。
- ・ 各地域・流域のグリーンインフラの課題に個別的にアプローチすべき。
- ・ 人材、財源の不足する自治体でグリーンインフラを実現できる仕組みづくりが必要。
- ・ ミティゲーション、隔地貢献の考え方をグリーンインフラにも導入すべき。

(評価について)

- ・ 現状サービスへの満足度とニーズのギャップを埋める形で戦略を作るべき。
- ・ 「グリーンインフラの評価」はコミュニケーションの手段と捉えるべき。
- ・ 認証制度については、必要性や評価に基づく質の高い制度づくりが必要。